

視察報告書

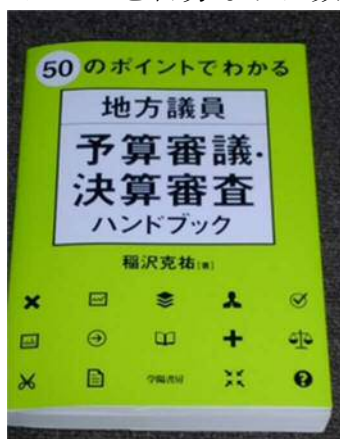
視察先	会派「公明党」・・・井上正則・大塚みどり・河村康之
期 日	平成 30 年 4 月 25 日(水)～26 日(木)
場 所	「全国市町村国際文化研修所」 滋賀県大津市唐崎 2-13-1
テーマ	市町村議会議員研修「2 日間コース」 第 1 回自治体決算の基本と実践～行政評価を活用した決算審査～
対応者 (講師)	稲沢克 祐博士 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授
概 要	
<p>◆決算の意義と審査ポイント◆</p> <p>○自治体決算の基礎</p> <p>決算はすでに終わったことであるので、これからの予算が重要である、その為「決算結果」を踏まえて次回の予算の審議を行うのである。</p> <p>決算結果を見て、「財政状況は良いのか、悪いのか」「資産は増えたのか、減ったのか」「行政成果の検証をする」「予算がどのように反映されたのか」確認することが必要。</p> <p>○決算から予算へ連続性を考えての議会質問</p> <p>決算審査後の 9 月議会で、「政策課題を提起」し、執行部からの回答を受け、12 月議会では、その事が「次年度予算」に要求さるのかを問い、3 月議会では 12 月での答弁を受けての質問を行なう。このことが「決算から予算への連続性」である。</p> <p>○「決算審査における着眼点</p> <p>●決算審査の重要事項に従って決算審査を進めていくには・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「予算での目指す目的は達成できたのか」 ・「質疑は遵守されたのか」 ・「決議内容は実行されたのか」 ・「財政状況はどのようになったのか」 ・「財政改革は進められたのか」 ・「実施する行政サービスは目的を達したのか」 ・「全体から細部まで見れたのか」・・・全体を見て財政自立がされたのか？ <p>を見極めて決算を行う必要がある。</p> <p>●決算審議において「財政数値」「財産」「成果」のそれぞれの視点から分析する。そのために・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決算規模の年度比較（前年度比較と変化の要因調査） ・決算収支の状況年度比較（実質収支調書の比較と、要因調査） ・予算執行状況の分析（歳入・歳出の変化調査） ・財政構造の分析（歳入、歳出の構成・財政比率）を行う必要がある。 <p>◆決算審査の実践</p> <p>○決算カード・財政状況資料集の理解と分析</p>	

収支の均衡が保持され、計画的な財政運営が行われたのか（財政健全性）であったのか？財政構造の弾力性は維持されたのか？地方債と基金の残金はどのように増減したのか？その結果将来への純負担額は増減したのか？総務省の都道府県HPから入手できる「市町村財政比較分析表」に詳細が出ている、それに他の類似団体（市町村）との比較ができ参考になる事の紹介。

○財政分析 事例による理解として、架空自治体の財政資料を基に「分析」を行う。

- ・収支状況と基金残高との関係から・・・
- ・経営収支比率の性質別科目ごと推移から・・・
- ・積み立て金、地方債残高、債務負担行為の支出予定額から・・・

何が問題で、なぜこの結果になったのかを自分なりに数字をみての問題を分析する。



項目	数値	単位	備考
総収入	1,234,567	円	
総支出	1,234,567	円	
基金残高	123,456	円	
地方債残高	987,654	円	
債務負担行為	543,210	円	
純負担額	123,456	円	

資料集 (市町村)

資料1

資料2

資料3

資料4

資料5

資料6

資料7

資料8

資料9

資料10

資料11

資料12

資料13

資料14

資料15

資料16

資料17

資料18

資料19

資料20

資料21

資料22

資料23

資料24

資料25

資料26

資料27

資料28

資料29

資料30

資料31

資料32

資料33

資料34

資料35

資料36

資料37

資料38

資料39

資料40

資料41

資料42

資料43

資料44

資料45

資料46

資料47

資料48

資料49

資料50

所感

全体的に今回の研修は自分にプラスになったと考える、決算というと「予算」の結果が「決算」として出たものではなく、一年間の予算執行の中で実行されたかどうか、議会として、しっかり精査していくべきだと改めて実感した。

—作成者 : 河村 康之—

公明党視察報告書

研修	平成30年度「市町村議会議員研修2日間コース」
日時	平成30年4月26日(木) 午前9時20分～午後3時00分
場所	全国市町村国際文化研修所 (滋賀県大津市唐崎)
テーマ	第1回自治体決算の基本と実践～行政評価を活用した決算審査<2日目>
対応者 (講師)	稲沢克祐 教授 【関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科】
概要	
<p>◆目的◆</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治体財務の一連の基本から決算を重視し、予算審議と連動させていく実践的な講義内容である。また、公会計制度改革・行政評価を用いた決算審査のポイントは、予算・決算の議決権をもつ議会の一員として、是非活用できると捉えられる。 <p>◆講演◆</p> <p>【理論編】決算審査の新しいアプローチ</p> <p><第3部>公会計制度改革の理解</p> <p>1 公会計改革理解のための言葉：発生主義、アカウントビリティ</p> <p>① 発生主義の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の財務書類作成の公会計改革の動きは、資産・債務改革に資するツールの整備として始まった。 地方自治法上の制度会計は、現金の収支が合った時点で取引・事象を認識する現金主義会計である。この会計だけでは、説明責任が十分とは言えない。 ◎現金主義会計では、現金の動きがないから、何も認識されない。取引や事象の発生時点で認識する発生主義会計を導入するべきである。 取引の結果として資産、負債、純資産の増加・減少といった動き、収益、費用の発生を記帳するなど、2つの側面に分けて記帳する複式簿記が優れている。 <p>2 地方公会計改革の効果と分析の視点</p> <p>① 透明性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 連結ベースの財政状況・世代間負担の状況等を明示 コストと住民(受益者)負担の関係を明示 税金等の財源とその用途を明示 <p>② マネジメントの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治体のマクロベースの目標設定・進捗管理への活用 他団体との比較分析により今後の方向性等を検討情報として活用 施策別・事業別・施設別等へ細分化することによる行政評価等との連携 <p>③ 資産・債務の適切な管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 固定資産台帳整備による公有財産管理の実効性・効率性の向上 遊休資産の把握による資産の効果的活用 貸付金・未収金等の台帳整備による収納事務の実行性・効率性の向上 <p>2 貸借対照表の理解と分析の視点</p> <p>① 分析の視点(一部抽出)</p>	

- ・固定資産については、事業用資産、インフラ資産について確認することにより、公共資産等総合管理計画の進捗を問う。
 - ・投資損失引当金が計上されている場合は、自治体が50%以上を出資・出せんする深刻な経営のシグナルなので、確認する。
 - ・流動資産では、歳計現金の規模が安定的に推移しているか、年度末の歳計現金ほどの程度が妥当と考えているかを問う。
- ◎行政コスト計算書と純資産変動計算書とを合体させる様式にすれば、純経常行政コスト、純行政コスト、収支差額が順番で提示。収支差額がプラスであれば、その年度の行政サービスはその年度の負担でまかなえたことを示している。
- ◎歳入歳出決算事項別明細書の数字の羅列の中で特に13節「委託料」、17節「公有財産購入費」、19節「負担金補助及び交付金」、21節「貸付金」、24節「投資及び出資金」、28節「繰出金」の増減に注視し、経緯や効果・継続理由など、既決事項内容を住民目線(※事業費50万円でも成果指標による分析を行うなど)で審議する。

【講義】実践編 行政評価を用いた決算審査の実践

<第4部>行政評価を用いた決算審査

- ① 行政評価の目的
 - ・定量的評価⇒業績測定⇒非財務数値の数値化
 - ・定性的評価⇒ロジック分析⇒妥当性・有効性・効率性の評価
- ② 名古屋市の事務事業評価表の事例より
 - ・事業の意図・内容・成果指標・評価の数値化(必要性・有効性・達成感・効率性・総合評価)等の項目を記載⇒「公的関与の範囲に関するチェック」の実施
- ③ 主要な施策の成果報告書として行政シートを提出している埼玉県秩父市の事例より
 - ・行政評価の基本事項は予算事業に一致し、成果報告書には、施策を対象とした施策評価シートも添付している。議決した総合振興計画がどのように進捗しているのかについても、決算審査の場で確認することができるようになっている。

所 感

◎これまでの私は、「事務事業の成果説明書」のみに注視し、事業の必要性・有効性・効率性などを審議するまでの提示には至ってなかった。特に、「決算に関する附属書類について」の記載項目や節の見方を確実に認識することができた。

●毎年8月に市民代表者から質疑を受けているフルコストに、昨年度傍聴した私は、行政評価シートらしきものを初めて目にした。そのとき、外部評価者に適しているのは議会ではないかと疑問に思っていた。稲沢教授は同じ考えを教示しておられる。(下記に記載)決算審議の活性化に向けて、今後、改善を提案していきたい。

◆資料文献より引用◆

「50のポイントでわかる 地方議員予算審議・決算審議」学陽書房 稲沢克祐著より
 決算審査の活性化の姿は、秩父市のように決算関係資料の充実という点で表れるだけでなく、決算審査にかかる時間などにも重点の置き方が表れる。この方法は、全国に広がりを見せている。たとえば、北海道福島町議会、長野県飯田市議会、徳島県小松市議会なども実施している。3議会に共通しているのは、議会による評価が実施されている。

—作成者 大塚 みどり —